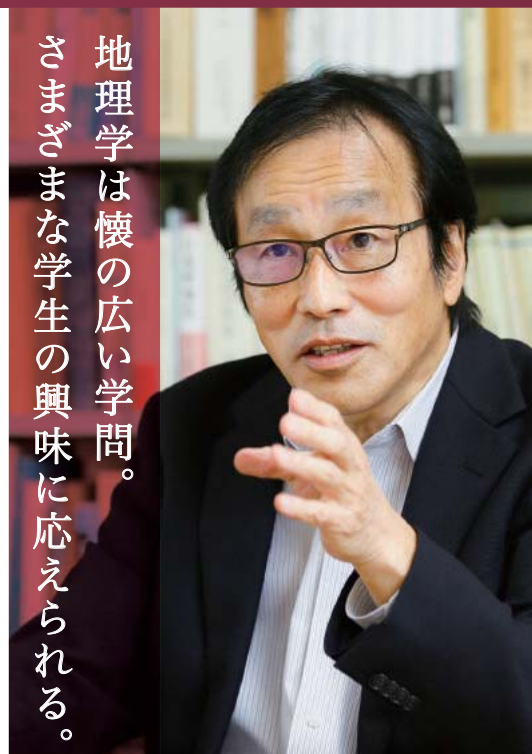


2021年4月、文学部(豊橋キャンパス)に新設。

歴史地理学科

日本語日本文学科



地理学は懐の広い学問。
さまざまな学生の興味に応えられる。

歴史地理学科

岡本 耕平 教授

[地理学、行動地理学、地理学史]

地理学は紀元前から存在した

歴史地理学科はその名の通り歴史学と地理学を学ぶ学科です。この2つの学問は、「特定の専門的対象を持たない」すなわち広範な領域に及ぶ学際的な分野として、日本では明治時代からグループ化されており、それが中学校の社会科や高校の地理歴史科にも反映されています。

地理学はとても歴史のある学問です。その端緒は、西洋では紀元前のギリシア・ローマ時代、日本でも奈良時代に編纂された『風土記』にさかのぼることが出来ます。地理学は、15世紀以降の大航海時代のヨーロッパで大きく発展しますが、その時代は、未知の世界への関心にとどまらず、領土拡大や戦争、植民地開拓等のニーズが学問発展の原動力になったのでしょうか。18世紀ドイツの哲学者カントが、大学で自然地理学を教えていたという逸話もあります。彼は港の船員から世界の情報を集めて学生たちに披露していたのかもしれない。

長い歴史をもち、冒険や開拓と結びついて発展した地理学には、気候、地質、動植物、工学、経済、生活文化など多種多様な要素が含まれています。近代になって学問の細分化・専門化が進む中で、時代遅れと軽視された時期もあつたのですが、現在は、地理学の総合性・多面性をもつ価値が見直されています。

地理学には興味・関心の異なる多様な学生が集まり、それぞれの興味に合わせて学べます。最近になって愛知県河川課が「歴史と地形から、愛知を知る。プラアイチ」というプロジェクトを立ち上げましたが、タモリさんの番組の影響を受けた人も、これからは増えるでしょう。何でもできる学問ですから、逆に言えば「大学へは行きたいけれど、まだ自分の関心が定まっていない」人が、ここで自分探しをするのも良いと思います。

防災にも観光にも貢献する学問

私は地理学の中でも行動地理学という分野を主に研究しています。「人間が日常生活の中でどのような地理的行動をしているか？」を解明する学問です。対象は消費者であつたり労働者であつたり、幅広く市民であつたりとテーマによって変わります。また地理と言つても地図上の地形や道路だけでなく、建物やその内部の通路、人間が立ち寄り寄る施設等も考慮します。身近なところでは「ショッピングセンターの買いまわり客をより多くの店に立ち寄らせるための空間設計等」にも行動地理学の知見が活かされています。

昨今は台風や豪雨、河川氾濫、地震といった災害が多く、防災プランの再構築が叫ばれていますが、地理学はその分野にも大きく貢献しています。たとえば河川の氾濫に対し、ダムや堤防の建設だけでなく、氾濫時に安全に避難できる街づくりや、より適切な避難所の選定、避難所までのルート確保や周知といったソフト面からも提言します。水害や地震に対してハザードマップを作るにしても、日頃から市民に読んでもらえるよう構成を考えたり、国際化が進むなか外国人にいかにか伝えるかといった部分にまで踏み込みます。

北海道の美瑛町に「ケンとメリーの木」という木があることをご存知の方は多いと思います。平凡な一本の木がなぜ観光名所になったのか。そこには木が登場したCマイメージや北海道開拓史、美瑛の風景などいくつもの要素が絡み合っています。「空間・場所 景観・地域」をキーワードに地図を読み解くことで、新しい価値を見出す。これも地理学的発想です。多彩な人々の多彩な興味、あらゆる学問領域をひとつに集めることで、ものの新しい見方や組み合わせを発見できる、それが地理学の魅力です。

愛知大学のレガシーを活かす

歴史地理学科ではフィールドワークを重視していきます。対象地だけを設定して、そこで何をテーマに研究するかは学生個々に決めてもらいます。現地に赴きテーマを考えるという訓練を何度も重ねることで、新しい研究に挑む着眼点が鍛えられます。どんな研究が生まれるのか、私も楽しみです。

愛知大学の場合、同じ豊橋キャンパスの地域政策学部にも地理学の専門家がいますし、大学全体を見渡せばさまざまな分野の教員がいますから、必要に応じて彼らの指導を受けるのもいいでしょう。加えて愛知大学は愛知・長野・静岡にまたがる三遠南信地域をはじめとする越境地域マネジメント研究という実績があります。地理学を学ぶ環境は十分に整えられています。

2022年度から高等学校では「地理総合」「歴史総合」が必修科目となります。しかし愛知県だけでも100人以上の地理の教員が不足していると言われます。地理学の面白さをより広めるためにも、愛知大学卒業後は教職という道があることも意識しておいてください。